

# ドラマ神奈川

第5号

## 各劇団旬の顔

舞台の上だけでなく、又、照明や音効  
大道具に携わる時にだけでなく、稽古場  
での日常の中にも旬の顔はあります。

### 加盟劇団 12月→3月 公演スケジュール

#### 劇団河童座

12/2(土)PM6:30・3(日)PM1:30→横須賀青少年会館 1/13(土)PM1:30&PM7:00・14(日)PM1:30&PM6:00→東京銀座小劇場 作・演出/横田和弘「タイムカプセル・一本国物語」

#### 劇団蒼生閣

12/15(金)PM6:30・16(土)PM2:00&PM6:30・17(日)PM2:00→教育文化ホール 作/横山さとみ 演出/濱田重行「忠臣蔵でござーる」

#### 劇団こゆるぎ座

2/17(土)→小田原市中央公民館ホール 県文化連盟小田原大会芸能鑑賞(アトラクション)小山内薫・作「息子」上演予定

#### 横浜小劇場

3/16(土)・17(日)→関内ホール小ホール 演目検討中

#### かわさき演劇まつり

3/30(土)・31(日)→「モモ」川崎演劇塾、行動座、京浜協同劇団の3劇団の合同で出演。

### 理事会及び新年会は 1月20日(土)です!

県内14の劇団が、互いの利害に留まらず、連絡を取り合い、情報を交換しそして共同行動をする。神奈川県演劇連盟がリニューアルしてもう一年以上にもなります。開店休業状態だった中身も、総会の大盛況を筆頭として、理事会の活発化、要望小委員会の発足、そしてこのドラマ神奈川の発行と、その活動は目覚ましいものがあります。要望小委員会では、行政に対して強力な要望書がまとまりましたし、理事会では合同公演や県内の演劇状況の把握などが積極的に話されています。

このドラマ神奈川も、加盟劇団のみならず各方面に配布されており、少しずつではありますが、良好な反応が帰って来ております。

と云う訳で、新年会で皆さん大いにパーティーしましょう。



劇団横濱にゆうくりあ 井上はつみさん

いい舞台・映画・本に出会うことが、自分の糧となり、活力となると語る井上さん。学生時代から芝居に魅せられ、苦しめられ、励まされてきた。役はなりきるものではなく、自分の生きざまと重ねるものという視点。



京浜協同劇団 若菜とき子さん

劇団創立より35年間、持ち前の柔和さと、アルコールによるマシンガンの様なしゃべくりで、陽に陰に屋台骨を支え続け、さらに後何十年間引っぱって行くとはりきっている、京浜協同劇団の聖母、若菜とき子。



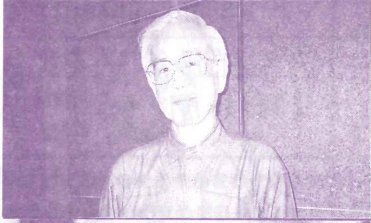
劇団かに座 宇田知美さん

'95横浜演劇祭の「楽屋」で存在感のある演技をみせてくれた宇田さん。「女性として、人間として、成長したい。」と、劇団においても、制作・裏方・役者と全力投球の実践派。真摯な人柄に惹かれてしまう人も多いはず。



劇★派事ム所 狗飼ひろこさん

ゲキハチックワールドに魅せられメンバーに。現在では重要な役どころを担っている。横浜の芝居の印象は?「もっとオープンになった方がいい」とのこと。グラタンと豆腐が大好きな、イイ女である。



横浜小劇場 田中迪也さん

演劇は特殊なものでなく、生活の中で息づく文化。だから、「思い出」として過去のものにしないで、観客としてでも、関わりを続けて欲しい。語学堪能の田中さんは、国外においても、バリバリの演劇人として大活躍中です。



湘南ミュージカルシアター 前田 泉さん

モダンバレエの経験があり、フルートも吹ける泉さん。「演劇は自分の身体を使って表現出来る、そこが一番の魅力です」何時でも新しくをモットーに、何かに前向きに向ってゆく自分自身を感じつつ、培ってゆきたいとの事。

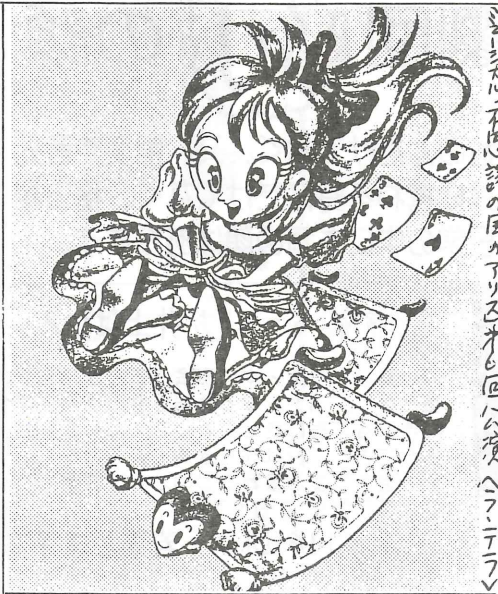


劇団蒼い群 村田次郎さん

万年青年の趣が大の、愛称ジローさん。どんな芝居がやりたいですか?の問いに、「セリフを大事にする芝居。生活の中でホッとするような芝居。今年2月に横浜進出を果たす。ジローさんの牽引が益々期待される。



'95横浜演劇祭の観客から、沢山の感想文をいただきました。「バンク・バン・レッスン」は大好評でしたが、「楽屋」は、「つまらない、暗い、清水邦夫は難解だ」etc. とキビシイ批評が多く、演出はガックリ。「外国の観客が感動したのに、日本のお客が居眠りコイテルとは！」とか「日本の観客には今や60年・70年代の力は消え失せ、いたずらにテレビのお笑いのみを芝居に求めているのか！」とか、訳の分からないことをわめています。でもやっぱり作り方が古いんじゃない？今の観客は「チーフホフ」だの「かもめ」だのといっても知らない人が多いんだし。批評の詳細は、毎月お送りしている「よこはま演劇」11月号をお楽しみに。〈横浜演劇研究所・横浜小劇場〉



ミズカワトシ子さんの「曲角」の団子です。オビは「公演」の「ハ」の「テ」の「フ」

かに座通信 (5)

※「危険な曲角」(10月公演)の置道具、ドラマの発端となるラジオ、ホンモノのイギリス製真空管ラジオ、売値6万円のもの2000円で借用、このほか各お店から借りた物、ステンドグラスのテーブルスタンド、鹿の角の壁掛、ランプ、植木、何れも菓子折ひとつで、大感謝

※高津小道具と約束してあったソファ一類が戻ってこないとの連絡、なくては幕が開かないと、役者も同行して他のソファを搬入、結果は舞台を御覧になった方のみが知る!! ~気になる方は舞台写真をどうぞ~

よこすか演劇フェスティバル '95参加  
10周年記念公演・第19回公演

清水邦夫作『楽屋』  
演出 吉本敏克

1995-11-18(土)19時開演

11-19(日)13時開演

県立横須賀青少年会館

出演 鈴木たかね 越地祥子

大原康子 谷岡あや子

劇団夢樹 (む-じゅ)

横須賀市追浜東町3-65-101 今井 恵  
0468-66-4013

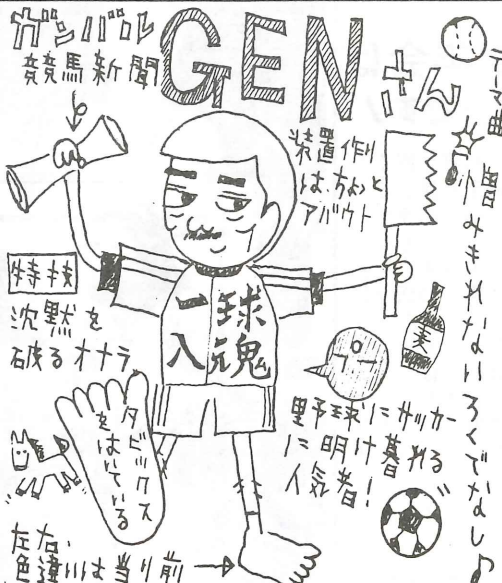
劇★派事し

横浜の演劇の活絡組織に『横浜』というのがあります。いるのですが、その企画しているのが、平田オリザ氏や坂場演劇にはいま7-7ショップの内容も団がSも数名参加

5月に、京都の劇横浜に呼び寄せたい。遊劇体を相

ーそう言えばアオムレは来年、創立25周年を迎えるということですが、何か記念行事は企画されているんですか?—


え、私たちは1971年(あやむ)5月30日が誕生日で、正確には満25年になります。でも一気には25周年記念行事をやっちゃおうかなーと考えてます。現在、企画中ですが、当然記念公演(できれば年2回=101, 102)は是非とも……



★24回公演「サラ」  
心一息つく今日の頃、なんかいられない。  
「まり」はもうあじも、しかも今回は25演出は我が劇団老体にムチ打て、時計をみつ、壺が息を荒くして、意気ああ、本当のまだ「まだ」遠い。

# 劇団流るば

## にゅくりあ News.



10がつワカ(土)  
にゅくりあ美人(?)  
女優せやともこ  
ごんが、めでたく  
ご結婚致し  
ました。おめで  
どうございませ  
うがま  
いっす。

アバウト失て  
とつモカワイイ  
ドンガリのヲカ(仮?)  
をみつめました。

木のエダ  
顔でかいて  
OKです。人々じんぐり  
じんぐりにキリッ空をあけて  
木のエダをさしてね。  
詳しく矢口たしい人は、事務局  
萩園温水フールまで!  
伝線を守ろう!!

なすゆきえ CHAN 情報 PART 1



フランス公演でも好評だった「世附の獅子舞」より(写真/長坂邦広)

## 太鼓の出演相次ぐ

他団体の集会や行事に企画、演出で協力したり、太鼓や腹話術などで出演したりする機会は年に数十回にもものぼります。観客との結びつきを深める大事な活動となっています。

京浜協同劇団 川崎市幸区古市場2-109  
TEL.044-511-4951

## 所テス!

性化をめざす連  
劇場文化フォーラム  
私たちも加入して  
フォーラムが現任  
ワークショップです。  
今年二氏など、小劇  
一番活躍中の3名です。  
大変有意義で、我劇  
しています。

団「遊劇体」を  
ユールな劇空間で南  
西では今もとても期待  
鉄本多に呼びます。

## < 御礼申し上げます >

① 劇団にゅくりあ座  
創立50周年、第43回  
公演  
「小田原終戦物語」  
おかげ様で大盛況、好評の  
うちに打上げとなりました。

② 県演劇連盟加盟各団体様  
フェスタバブル又、自立公演  
法印招待の法印案内とありが  
とうございました。巻々の御礼  
席をお送り申し上げます。

## 合同公演っていいもんですね

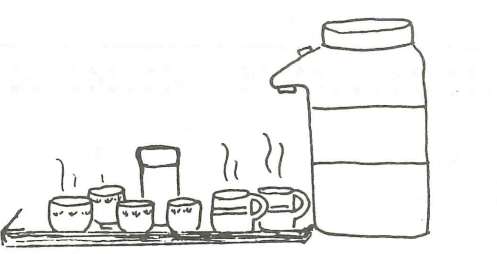
横浜演劇際で初めて合同公演をしま  
した。最初はなんとなく話づらい雰囲気  
が、稽古を重ねるうちにひとつの劇  
団のような気がしてきてとても楽しか  
った。特に最近マンネリ気味で新鮮さ  
を求めていた私にとっていい刺激にな  
ったと思います。

葡萄座さんには迷惑でした?  
番外編の座長大会も楽しめました。  
いい交流を今後も続けたいですね!

劇団蒼生樹 8045-242-3584  
220・横浜市西区伊勢町3-133-824 濱田方

ブも終わり  
だけビイ本んび  
3月の三劇団合同  
動いている。時間10時  
周年だしなあ。  
の団のぼるだ。  
ハの穴ひろげ、  
中心になるんだから  
込んでいる。  
心休まる一息まで  
...

## 劇団葡萄座の日常5



『少人数』という現状  
50周年は目前です。きびしい  
現実の中で今いる一人一人が力を  
合わせ、そしてまだ見ぬ新しい仲間  
と共に記念すべき区切りの年を  
走りぬきたいと思ひます。

## うちのホ"ス"さん

劇団河童座 みんなのヒーロー  
一横田和弘 さん



とてせまいみたい  
だがその奥には  
芝居のネタがぎゅり  
の横田脳がある。

「おぼろな瞳」と  
おぼろってはいけな  
い。稽古中には役者を  
マインドコントロール  
している性光線  
を放射するから  
おそろしい横田アイ

最近タイエイトに成功し  
て本人ちやみりうけい  
横田おなか

・弱点: 髭、おど顔ほどなど。3.  
せむさん(2人)・座員(H.S)

「趣味」競馬  
(もちん本番前は)  
でもなんの時  
ちやみりうけい

「嫌いなもの」  
にんじん・セロリ  
「好きなもの」  
座員(?)馬(?)  
「好きな言葉」  
「愛にうてる」  
「ロゼ」  
「バカヤロー」  
(本人は愛情表現  
だと言っている)

by Hiro

# 考

## 今、アマチュア問題提起



### 色あせてゆく 「アマチュア演劇」という言葉

泉谷 渉

皆さんはいかががお考えでしょうか？  
次号では、フリーに御意見を伺えれば  
と思います。

へ表現の現場には、アマチュアもプロも  
ない!!

「アマチュア演劇」という言葉、意義  
についての議論がかまびすしい。そのほ  
とんどの場合は、プロ演劇に対して、ア  
マチュア演劇は、という枠の中で語られ  
ることが多い。横浜にゆうくりあ、とい  
う劇団の現場においてもこのことは実は  
かなりの時間をついやして議論されてき  
たことだ。その結論として、自らを「ア  
マチュア演劇」と命名することにはどう  
しても賛同できない、といわざるを得な  
い。

ける画廊に入ってみても、「アマチュア絵  
画展」などと命名されたものは皆無にひ  
としく、音楽コンサートに出かけてみて  
も、「アマチュア楽団」という言葉は  
ほとんど存在しない。表現者たちが広く  
観客に対し、また社会に対し、自らの作  
品を発表していく時に、アマチュア、プ  
ロという二元論で考えていくとしたら、  
これほど空しいことはない。印象派やバ  
ルビゾン派の画家のかなりの人たちが、  
職業を持つ人たちであり、その作品は時  
代を超えて今も多くの評価を獲得してい  
るといふ事実を考えてほしい。その人た  
ちがお金をもらって絵を書いている人た  
ち（プロの画家）に対して、技量が劣っ  
ていたのでしょうか。こゝ然と輝く作品  
のすばらしさが、その人たちが「アマチ  
ュア」であった、ということでは何か決  
定的に変わることがあるのでしょうか。  
実際のところ、演劇をつくっていく現  
場においても、私はプロだから、私はア  
マチュアだから、ということでは作品づく  
りのプロセスや、つくられた作品の評価  
基準が変わる、ということがあるのでは  
でしょうか。ひとつ、ひとつの動きを確かめ  
セリフ出しのイントネーションに工夫を  
こらし、全体のプロットの流れの中で自  
らの演技はどの位置づけられるかを考  
え、実行していく時に、「私はアマチュ  
アだから」と想っている人がいるのでし  
ょうか。表現の現場においては、アマチ  
ュアもプロもない!!というものが、この問  
題に対する私たちの見解なのです。

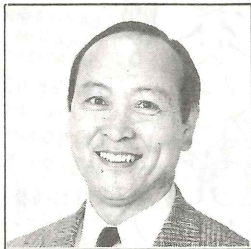
「演劇人だけが使う『アマチュア』とい  
う言葉」

プロフェッショナルとは、その技術、  
技量によってお金を得ている人たちのこ  
とであり、アマチュアとは、同じことを  
やってもそのことでお金をもうけて  
いるわけではない、と定義づけられるよ  
うに思います。そこで、身のまわりを見  
わたしてみても、私たちのまわりには、  
様々なプロが存在しています。コンピ  
ューター技術者、弁護士、水道工、消  
防隊、新聞記者、経理事務、お寿司屋職  
人、などそれらの人たちはみた、立派な  
「プロ」なのです。しかし、それらの人た  
ちが、「私はプロだ」といいふらすこと  
はめったにありません。それは、あたり  
まえのことだからです。私の知っている  
範囲では、ことさらに演劇関係だけが  
プロだ、アマだという意味のない規定を  
しているのです。

もちろん、私たち、にゆうくりあの活  
動もそのことによって営利を目的とする  
わけではありませんから、「商品」として  
の演劇をつくっていくポジションとは異  
なるわけです。権力や政治、または資本  
の力によって自らの表現活動を制限され  
たくない人たちの歩む道は、必然的に  
うところの「アマチュア」という選択を  
しなければならぬのかも知れません。  
しかし、前記の理由によって、自らの活  
動をわざわざと「アマチュア」という冠  
をつけて行うことの意味がわかりません。  
オリンピックですら、プロも、アマもな  
いというこの時代において。最後に、あ  
る観客の言葉です。「五〇〇円でも金を  
とれば、それはアマチュアとはいえない  
ぜ!!」

### 役者は一人で 何が出来るか

劇団川崎演劇塾  
小川 雅功



どうも役者と云うのは台本があつたり、相手役  
がいたり、セリフが決められていると何とかなる  
が、一人で自分の言葉で、となるとどうも苦手な  
様である。かく云う私もその一人である。落語が  
ある、漫談がある、そして語りがある。私も一度

だけ民謡の一人語りをやった事がある。しかし、  
これにしても作者が書いたものをそっくり語り風  
に朗読したにすぎない様な気もする。自分独特の  
もの、自分なりの解釈を加え、自分の言葉で面白  
く楽しく、聞き手をグイグイと引っばってゆく。  
そしてそれを芸にまで高めて行けたら……。

マルセ太郎と云う芸人がいる。映画全篇を丸ご  
と語る「スクリーンのない映画館」で「泥の河」  
や「アマデウス」等を語る。マルセさんは正に前  
述のボクの思いを舞台で見事に観せてくれる。現  
在62才、ガンと闘いながら舞台上に立っている？私。  
も多めに刺激を受けて観て来た映画等をまず家族  
に語っている。家族はウンウンと聞きながら時々  
あくびをする。まだまだやりたい事が山ほどある  
のです。



# 観

9月～11月  
ステージ  
見聞録



## 劇団葡萄座

「僕らは生まれ変わった  
木の葉のように」

9月9日～10日  
関内ホール小ホール

葡萄座がこの作品を、今上演しようとした着眼点が実にいい。  
この作品は、一九七〇年代に書かれたものだど記憶している。ところが葡萄座の上演を観て、清水邦夫がモチーフとしていた「挫折」は、あの七〇年代より、九〇年代のモチーフであるような気がする。いつてみれば、今この作品が上演されるのは、ジャストタイムだと、あらためて感じたいムだ。何気ない平凡な家庭に、一台の車が飛び込んだ。団樂の

居間の中に車が飛び込んできても、その家族は何ら動ずることなく、飛び込んできた男女さへ、淡々とした日常の中に溶け込ませてしまおう。ブックといえどもそれまでも、社会の変革を叫んだ人たちが、保守化の波に完全に吞まれてしまつて「革命」という語さえ死語になつてしまつた状況が、この一家の日常性の中に象徴的に表されていく。日常の中に呑み込んでしまふ家族の反応に寒気さえしてくる。まさしく現代はあの家族の反応通りの時代であつて、あの七〇年代の熱っぽさはまったくといつていいほど消え、あきらめと、無気力な閉塞感ばかりが、社会を覆つている。それでも淡々とした日常生活を送つている家族。羽々とした雲囲氣を家族の父（羽生昭彦）が鮮明に表現していった。

幕開きと暗転で、フォーク歌手風の男を出して、叫びに近いものを表現しようとしていたが、今の街頭パフォーマンス風にするとか、全体的にまんべんなく九〇年代の味付けがあつたら、もっと今の時代性を表現できたのではないだろうか。（担当・劇団蒼い樹）

## 劇団こゆるぎ座

「小田原大手前  
終戦物語」

作・五塔倫太郎  
演出・楠田正宏  
10月28・29日  
小田原市民会館

小田原市民会館に入つてまず驚いた。王名の大ホールが満席。前日も満席。しかも今



年に限つたことではないといふから驚く。  
こゆるぎ座は今年創立五〇年を迎えた。つまり戦後五〇年と歩調を合わせて歩きつづけてきたことになる。今回の作品もその区切りの年にふさわしく、敗戦の年の正月から次の年の晩秋までの、迫り来

## 劇団川崎演劇塾

「サラブ」  
作・演出／今泉勇一



川崎の劇団の芝居を横須賀から電車に乗つて横浜の劇場に観に行く。何んと、コスモポリティックなことだろウツ。川崎演劇塾が創り出す世界は一体どんなものだろうと、興味津々。最初に感じたものは妙な懐かしさ、小さい頃、お祭りで御神楽を見物した時の感覚が甦つた。小中学生から老人まで、観客は多岐に渡つており、これから始まる舞台上に皆さんが一途に想いを寄せているからなんだろう。この劇団は伸びるぞ。

11月3日～5日  
相鉄本多劇場

る敗戦と敗戦後の混乱期を生きる、小田原大手前の畳職人一家の物語である。もちろんオリジナル。『戦後五〇年』を演劇を通して問うという課題を正面に据え、決して忘れてはいけぬ時代として目をそらさない姿勢は、満席の観客の共感を呼び、笑いと拍手涙をさそつていた。  
こゆるぎ座は「なんの邊巡もなく正当演劇の幕を揚げつづけて」いると作者は書く。市民の声の代弁のようにも聞こえる。个性的で達者な役者さんも多く骨太く仕上がつた。何より真つ直ぐな姿勢で社会を見つめ、芝居を創つている。なと思う。ただあの時代はほとんどどの男は坊主頭だった。時代考証をもつすこしと思う。そしてあの時代の作品としては少しハッピーに終わり過ぎたかなとも。

（担当・京浜協同劇団）

戯曲は一通り書けている。習作の上、といつたところか。テンポと流れをキープした演出も手慣れた様子。随所に比喩をコミカルに配し、グイグイと話しを引つばつてゆく。芝居こころ旺盛な役者の明確な演技も心地良く、久し振りに笑わせてもらった。  
川崎演劇塾が創り出す世界、新しい日本語で言つてみるならそれは、ネオ市民エンターテイメントとなるか!?

担当／劇★派事△所

## 編集後記

編集にかかわり、新しい出会いが生まれ、うれしいかぎり。  
横濱駅西口の「白十字」での編集会議は、バイオレットフイズの味と、ナフタリンの香りを思い出させてくれた昔と、一つだけ見れなかった昔と、西口に響く若者の歌声がやけに嬉しいのだ。（泉）

ビジュアル重視の編集方針。これは、各劇団のメンバー一人一人の顔が出来るだけ多く見える様にと願つてのこと。でも、ネタが尽きる時が、コワイッ。ともあれ、第5号目発行。ドラマ神奈川も2年目に突入です。（祭）